



冠水常習地域の抜本的対策がはじまります！ 福田町（田子・福住町・仙石）エリア 「仙台市流域治水モデル地区」に指定！

田子の田園地帯

令和6年度 仙台市施政方針 ※一部抜粋

・・・・・・防災・減災の推進についても、福田町周辺とその上流域を「仙台市流域治水推進モデル地区」と位置づけ、農地での田んぼダムや宅地での地域協働による流出抑制の実践・実証などに取り組むほか、宮城県による第五次地震被害想定調査の結果を踏まえ、今後の被害軽減に向けた行動計画を策定します。・・・・・・

01 国の方向性

国は、仙台市でも甚大な被害が生じた令和元年東日本台風をはじめ、近年、全国的に甚大な水害が頻発している状況を踏まえ、これまでの河川部門・下水道部門が主体となっておこなう治水対策に加え、河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策、『流域治水』への転換を進めることとしました。

02 福田町エリア選定理由

- ・水害被害の頻度や規模が大きい
- ・住民の防災意識が高く連携しやすい
- ・近年の農地開発で住民の不安が大きい
- ・全域で浸水があり理解しやすい
- ・農地排水と都市排水が混在している
- ・教育施設が多く、若者との連携に期待できる
- ・福田町駅移転に合わせ浸水対策を予定
- ・避難時に配慮が必要な福祉施設あり

03 流域治水の取り組み

- 国は、以下の3つを流域治水の基本的取り組みとして掲げております。
- ① 河道掘削・拡幅等の『氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策』
 - ② 土地利用規制等の『被害対象を減少させるための対策』
 - ③ ハザードマップ作成等の『被害の軽減・早期復旧・復興のための対策』

04 初年度の取り組み

- ・水車堀嵩上げ対策
- ・福田町駅移設に伴う水車堀狭窄部拡幅に関する調査検討
- ・田子排水機場の能力増強に関する設計
- ・排水ポンプ車の運用
- ・田んぼダムの調査検討
- ・道路への水位標の設置
- ・既存住宅からの流出抑制策の調査検討
- ・ICTを活用した水路の水位情報の提供 等

05 これまでの議会での議論

- ・令和元年第3回定例会 令和元年東日本台風による福田町エリアの被害
- ・令和2年第1回定例会 福田町駅移転に係る周辺の水害対策
- ・令和3年第1回定例会 水害対策優先地区の指定と着手期限
- ・令和4年第1回定例会 福田町エリアによる抜本的対策の検討状況
- ・令和4年第3回定例会 福田町エリアにおける排水施設に非常電源装置がない件
- ・令和5年第1回定例会 水害対策優先地区の抜本的対策の着手状況
- ・令和5年第3回定例会 田子排水機場の稼働不安
- ・令和6年第1回定例会 福田町エリアを「仙台市流域治水モデル地区」に指定した件

詳しくは
裏面を
ご覧ください！

TORCS 高砂小・田子小・鶴巻小・田子中・高砂中

特別教室（音楽室や視聴覚室等）に 令和8年度までエアコンを設置！！
体育館に 令和6年度に大型冷風機1機、令和7年度にもう1機設置！！

田子児童館遊戯室 令和8年度までエアコンを設置。設置までは応急リースエアコン！

仙台市議会 令和6年度 第1回定例会 予算委員会 質疑答弁



MOVIE



- Q 流域治水の考え方として国は基本的な取り組みを3点掲げております。1点目の「氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策」。今回のモデル事業における取り組みは、
- A 令和6年度における「氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策」は、**水車堀の嵩上げ対策や田子排水機場の能力増強に関する設計に着手するとともに**、大雨時に一時的に水を溜める**田んぼダム**や、**既存住宅からの流出抑制策、福田町駅移設に伴う水車堀の狭窄部拡張に関する調査、検討**を行います。
- Q 「田んぼダム」について伺います。想像できるように、大雨の際、ダムのように一時的に水田に水をため、ゆっくりと排水することで流出量を調整する役割でございしますが、他都市でも取り組みが実施されております。どの程度の抑制効果があるのか。
- A 「田んぼダム」は、水田に降った雨を時間をかけて排水することで、流出量のピークを抑制する効果がございします。農林水産省による実証事業によりますと、水田のあぜの状況や流出量の調整器具、雨の降り方により違いはございますが、**流出量のピークを7割程度低減する効果があると結果が出ております**。また、想定する降雨に応じて適切な流出量調整器具を選定することで、より大きな効果を期待することができず。
- Q この抑制効果は、田んぼダムの取り組み面積に比例します。すなわち、田んぼダムへの取り組み面積が大きいほど、水害被害は軽減されます。このモデル地区の対象となる田んぼでございしますが、どのくらいの面積があるのか伺います。
- A 今回のモデル事業では、**岩切、田子地区の水田を対象として田んぼダムを実施することを想定。対象面積は約280ヘクタール**。新年度に、当該水田のあぜの状況等についての現地調査や実施効果の検証等を行い、その結果を踏まえて田んぼダムの実施対象エリア等について検討してまいります。
- Q 田んぼダムでございしますが、氾濫域である田子や福田町側の方の理解は得やすいと思いますが、氾濫域ではない集水域の上流、ここのエリアの場合、岩切寄りの方の理解も必要でございします。そのような地域に田んぼを所有する方の理解を得ながら進めていかなければなりません。素直に受け入れてもらえるものなのか心配。流水を抑制することで、収穫量への影響等はないのか心配でございします。今後、どのように説明して協力を求めて行くのか。
- A 田んぼダムが、大雨時にあぜの高さまで雨水を溜めた場合の水稲に対する影響につきましては、時期や日数などにもよりますが、米が実らないことによる減収などが懸念されます。このため、事業の実施にあたりましては、新年度に実施する調査、検証の結果等を農業者の皆様と共有し、目的や効果、営農への影響などについて丁寧に説明し、ご理解を頂きながら進めてまいりたいと考えております。
- Q 既存住宅の流出抑制の取り組みで伺いますが、田んぼダムと同様に、この取り組みも集水域側の協力も必要。具体的な取組みは。
- A 集水域の上流域も含め、**宅地からの排水の流出抑制も重要**と考えており、**宅地に降った雨の流出量を調整する簡易な装置の設置**を考えております。この実施には、住民の皆様のご協力が必要となりますことから、まずは、長年浸水対策について意見交換を重ねてきた町内会や住民組織に協力をお願いし、事業の効果や課題を検証したうえで、モデル地区全体に広げてまいりたいと考えております。
- Q 「氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策」として即効性があるのは、ハードの整備でございします。ハードといっても、この範囲の排水機場については何度も改善を求めさせて頂きました。その中で、**令和元年東日本台風で機能不全、昨年も水門の接触不良で稼働が遅れており、議会でも指摘をさせて頂いた田子排水機場**でございしますが、こちらの排水機場の増強ということで新年度多額の予算を割り当てて頂いております。この田子排水機場の予算の詳細をお示し頂くと、東北学院高校東側に計画中の小鶴雨水ポンプ場との関係をお示ください。
- A 東北学院高校東側に設置を予定している小鶴雨水ポンプ場は、市街地の雨水排水施設として位置づけ、農業用排水を担う田子排水機場と機能を区分しているところでございします。しかし、現状では市街地の排水と農地の排水が混在していることから、浸水対策の効果を早期に発現させるため、**駅移設に伴う水車堀の改良とあわせ田子排水機場の増強を図る**こととしたもので、その設計費用として**5千万円を計上**しております。なお、小鶴雨水ポンプ場の整備計画につきましては、令和6年度に行う田子排水機場の排水能力などの検討を踏まえ、改めて整理したいと考えております。
- Q モデル地区選定理由の一つでございしますように、令和7年度から本格的に工事が始まる、**福田町駅の移設と同時進行**していくこととなりますが、駅の移設に関係するところの冠水対策につき、新年度における対応を伺います。
- A 本事業における駅移設に係る浸水対策として、**仙石線と水車堀の交差部における狭窄部拡張や駅移設先の上流部に当たる水車堀の嵩上げ**がございします。令和6年度は、そのうち、**水車堀の嵩上げに向けた測量、設計を予定**しております。
- Q 流域治水の考え方として、国の基本的な取組みの2点目ですが、「被害対象を減少させるための対策」でございしますが、こちらの具体的な取組みは。
- A 「被害対象を減少させるための対策」につきましては、土地利用規制などの施策が考えられ、雨水対策委員会で検討を行っているところであり、他都市の動向なども検証しながら進めてまいります。
- Q 流域治水の考え方として国は基本的な取組みの3点目、「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」。こちらの具体的な取組みを伺う。
- A 「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」につきましては、**排水ポンプ車の運用や道路への水位標の設置、ICTを活用した水路の水位情報の提供、防災マップ作成やSNSを活用した被害情報収集**などに取り組むこととしております。
- Q 排水ポンプ車の導入理由、運用方法も含めてお示ください。
- A 今回の**流域治水モデル事業で配置する小型の排水ポンプ車**は、浸水被害の軽減や早期復旧を図るため、大雨時に事前に浸水が想定される場所に配置し、ポンプ排水を行うものでございします。
- Q 危機管理局に対して伺います。ICTの活用、SNSによる被害情報収集等、デジタル技術の利活用を実施するということでございします。特に、SNSの情報をどのように収集してどのように活かすのかお示ください。
- A SNSには最新の投稿をリアルタイムで把握できるというメリットがございします。そのため本市では、**災害等の発生時、SNS上の被害情報等の投稿を自動で収集、解析するサービスを導入**し、災害対策本部において**被害状況を迅速に把握するためのツールのひとつとして活用**してまいりたいと考えております。このサービスには、AIにより誤った情報を排除する機能も含まれており、信頼性の高い情報を効率的に収集することが可能となるため、特に大雨災害時には、本市の対応力強化につながるものと考えております。
- Q 流域治水については、令和元年東日本台風において全国的に甚大な被害があつてから本格的に検討がされてきた取り組みです。今回、様々な取組みを検討して頂き実践検証して頂く取り組みでございしますが、本市が取り組むうえで、参考にする流域治水の地域があるのか、それとも、他都市のモデルとなるような地域とするのか、是非、**他都市のモデルとなるような取り組みにして欲しい**と思いますが、ご見解は。
- A 河川氾濫が頻発する流域で、河川管理者が主導し、積極的に流水治水を実践している事例は複数ございしますが、河川氾濫の被害が少ない地域において、流域の自治体が**独自に流域治水に積極的に取り組む事例は本市が初めて**と思われます。こうした取り組みは、**他都市のモデルにもなるもの**と考えており、今後、地域の皆様や関係機関と連携しながら取り組んでまいりたいと考えております。
- Q 他都市のモデルとなるような取り組みに頂くということでございしますし、様々な技術を取り入れ、組織を構築して挑戦して頂くということで、被害の軽減が、地域住民に実感できるように取り組みを進めて頂きたいとおもいますが、最後に、**雨水対策委員会委員長の高橋副市長**にこの事業を含めた、本市の雨水冠水対策の方向性を伺います。
- A 近年、国が推進している「流域治水」は、河川や下水道のハード対策だけでなく、**“あらゆる関係者が水害を自分事と捉え、協働して防災・減災に取り組む”**という考えであり、本市においても**全庁組織を立ち上げ、各部署が連携して浸水対策に取り組んでまいりました**。新年度から取り組むモデル事業は、浸水被害の大きい**福田町周辺地域において、本市のみならず地域の皆様や関係機関などと協働で、それぞれが実行できる対策を行うもの**であり、他都市に先駆けた取り組みとなります。今後、効果が確認された施策は、他の地区にも水平展開を図るとともに、先進事例として全国に発信できるよう取り組むとともに、引き続き総合的な雨水対策を推進してまいります。



田子・岩切の田園風景



稼働が不安定な田子排水機場



移設工事が始まるJ福田町駅



市内排水施設で福田町エリアだけ、非常電源装置がございせん